

栗原古墳

伊勢原市教育委員会



環頭大刀把頭

かんとうたちつかがしら 環頭大刀把頭

三ノ宮、栗原の畑から大正時代に出土した大刀の把頭たちつかがしらです。耕作中に発見されたもので、直接古墳から出土したわけではありません。かつて近隣にこうした副葬品を納めた古墳があったと考えられます。

把頭は刀の柄え(握り)の先端につく装飾で、実用的な大刀ではなく、儀式用の装飾豊かな大刀に装着されます。

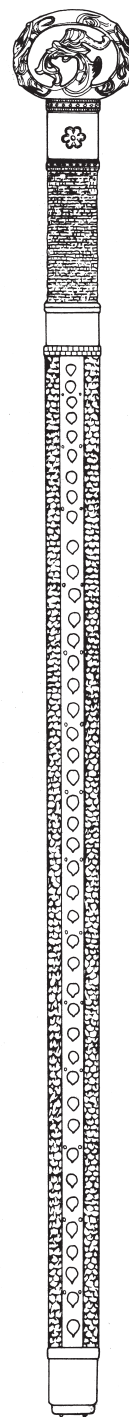
柄つばや鐔つばに金銀をあしらい、木製の鞘さやにも金色に輝く飾りを付けられたきらびやかな大刀の柄部分を飾ります。材質は表面に金を施した銅製で、雲をかたどった円環の内部に竜が配されています。

装飾大刀の模式図

通称「飾り大刀」と呼ばれるきらびやかな大刀は、漆塗りの鞘、鞘飾り、吊り金具、鐔(つば)、そして握りとなる柄と把頭に金銀の装飾を施しています。特に柄の部分は凝った造りになっており、金の鐔や鞘口金具、さらに握る部分には細い金、銀の糸を巻き付けています。実用ではなく、持ち主の権威を表わす意味があったと考えられています。

装飾大刀の意味

こうした装飾大刀は、大和政権の管理下、国内の工房で製作され、各地に配布されたと考えられています。つまり、この刀の出土は中央との太いつながりを持つ最高権力者の存在を想定させます。飛鳥地方でちょうど聖徳太子が活躍していた6世紀後半頃にあたります。

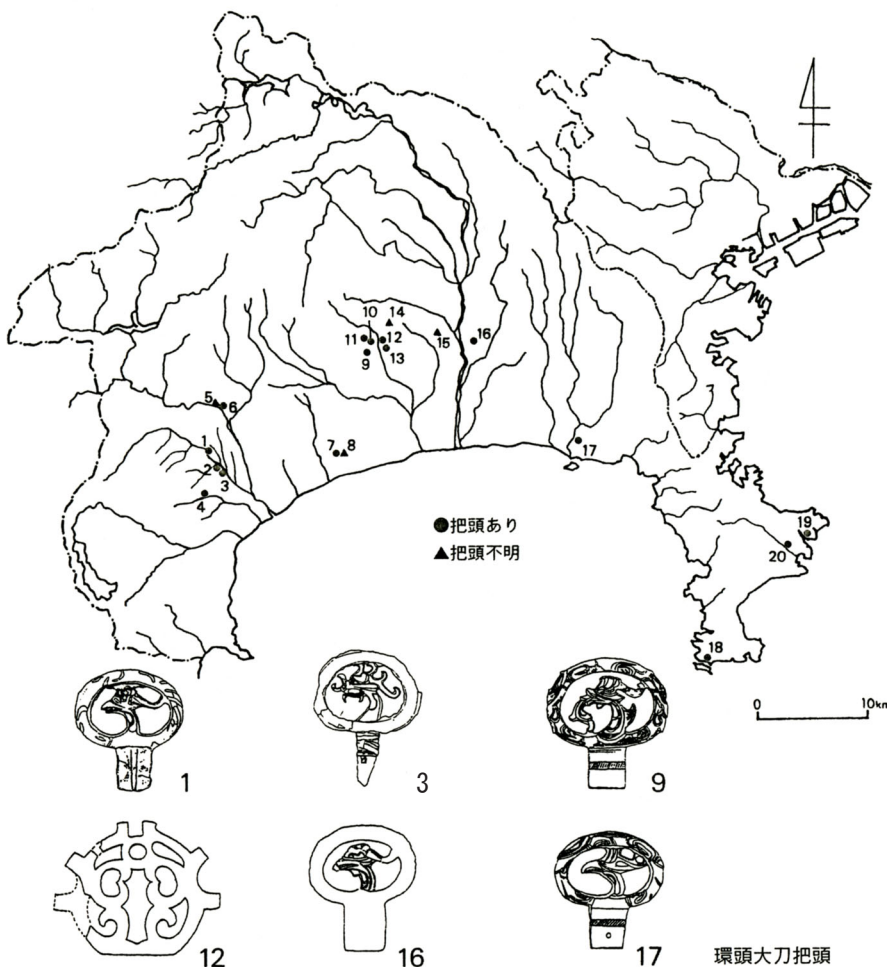


装飾大刀の模式図

古墳のさまざまな装飾品から被葬者の階層性を検討した研究では、装飾大刀がその最上位に位置づけられており、さらにその中でもこの環頭大刀が最も貴重な大刀とされています。相模国の領域内では、金銀で飾られた装飾大刀が20数例見つかっていますが、そのうち環頭大刀の出土は南足柄市の2例、伊勢原市の2例(三ノ宮)、さらに海老名市と藤沢市の合わせて6例に過ぎませんが。その中でもこの三ノ宮の資料が最も古く、作りも精巧です。横浜にある神奈川県立歴史博物館には、この資料のレプリカが展示されています。

金装、銀装大刀の分布

下の図は、現在の神奈川県のおおくを占める相模国(川崎、横浜のほとんどは武蔵国)において、金銀で飾った大刀の分布を表わしたものです。分布の集中する地点として、酒匂川上流の南足柄市周辺と丹沢山地の東側の裾にあたる伊勢原市周辺を挙げるすることができます。そして、なかでも最も集中するのが、伊勢原市の三ノ宮付近であることがわかります。このことから、当時の相模地方を納めた最高権力者が、伊勢原の三ノ宮地域に葬られたことがわかります。



相模国領域出土の装飾大刀

No.	遺跡名	種類
飾 長	1 塚田2号墳	金銅装単鳳環頭大刀
	2 塚原山神塚古墳	金銅装圭頭大刀
	3 岩原黄金塚古墳	金銅装単竜環頭大刀
	4 久野2号墳	金銅装円頭大刀
	5 諏訪脇B5号横穴墓	金銅装圭頭大刀
	6 諏訪脇C801号横穴墓	(金銅製鐔)
	7 河南沢1号横穴墓	金銅装圭頭大刀
	8 唐沢8号横穴墓	(金銅製鍔付足金具)
相 武	9 登尾山古墳	金銅装圭頭大刀 金銅装大刀(円頭or圭頭)
	10 栗原中島古墳	金銅装単竜環頭大刀
	11 ちちめん古墳	銀装大刀(円頭or圭頭)
	12 御領原2号墳	金銅装双竜環頭大刀
	13 白根	金銅装頭椎大刀
	14 渋田1号墳	金銅装大刀(柄頭不明)
	14 渋田2号墳	金銅装大刀(柄頭不明)
	15 大蔵寺横穴墓	金銅装大刀(柄頭不明)
16 本郷遺跡(住居覆土)	金銅装単鳳環頭大刀	
鎌 倉 別	17 川名新林横穴墓群	金銅装単鳳環頭大刀
	18 窪がり横穴墓	(銅製鍔出鏢)
	19 鳥ヶ崎横穴墓	金銅装方頭大刀
	20 吉井城山横穴墓群	銅装大刀 (鉄製龍象嵌鏢)

相模地域における装飾大刀の分布